

### 平成14年度 全国消防団員意見発表会の開催

消防団地域活動表彰式と全国消防団員意見発表会が、平成15年3月27日（木）東京都港区虎ノ門日本消防会館「ニッショウホール」において、開催されました。

消防団員の意見発表会においては、全国から選ばれた、30歳～40歳台の中堅クラスである消防団員11名が、団員としての日頃からの意見、団活性化対策や消防団員としての使命感等について、意見を発表いたしました。

その結果、最優秀賞に輝いたのは「もうひとつの手助け」と題して意見を発表した東京都八王子市消防団 平林真未さんでした。内容（詳細：別記）は、年頃の娘さんが、冬の寒い時のある日、外出中に起きた自宅火災の話で、この火災で亡くなったその母親に対する気持ちと自分が過去に遭遇した経験での母に対する思いとを重ねた話でした。

優秀賞には、愛媛県松山市消防団 向井成美さんの「消防団員としての一年 そして これから」、同じく優秀賞に、大分県国東町 前田真宏さんの「定位に一つけ！」が受賞となりました。他の方々についても、すばらしいご意見等でありました。

※最優秀賞 「もうひとつの手助け」 平林真未さん

(具体的な発表内容)

私には今、車椅子で生活し、失語症になりつつもいつも明るい笑顔で「今日も消防団ガンバレ！」とエールを送ってくれる母と、その母を支える父がいます。

母は11年前、私が18歳の時に脳内出血で突然倒れました。でもその時私は何も知らないまま大好きな映画館に居ました。

小さい頃から、救急や消防がこんなにも好きだったのに、いざ家族の事では何の手助けさえも出来ませんでした。

駆け付けた時には父は泣きじゃくり、朝迄の母とは全く変わり果てた、意識も反応も無い母の姿と対面し、私はやりきれない思いと孤独感、そして「どうしてこんな時にそばに居てあげられなかったんだろう」という自分を責める思いに押し潰されそうな自分が居ました。

そんな同じ思いをしているであろう、その当時の私と同じ年頃の娘さんが、一昨年冬の火災で、必死に消火しようとして頑張ったお母様を亡くされました。娘さんも、何も知らずにお友達と遊んでいて連絡を受けたのでしょうか。現場でお母様の訃報を知らされた時の娘さんの表情は、ちょうど11年前の私自身、そのものを見ている様でした。

大勢の人の中では泣けず歯を食いしばる彼女がそこには居ました。でも向かいの家の玄関前で声を殺して泣いている彼女を見て、私は団員として消火活動さえも手伝わずにいる自分がとてももどかし、  
「この人の為に私は何も出来ないのだろうか！」と心の中で叫んでいました。

そんな時、娘さんが可愛がっていたネコが救出された後、行方不明になっていると消防隊員の方から聞き「そうだこのネコを探してあげられたら、今の娘さんの心を少しでも救えるかもしれない・・・」と思い、私は必死でネコを探し始めました。

「もうそろそろ、引き揚げるぞ・・・！」と声を掛けられる程の時間がたった時、ようやく猫を発見！

探し出したネコを娘さんに手渡すと、涙をいっぱい溜めながらも、こう言って下さいました。

「ありがとうございました。ああ、この子だけでも生きていてくれた事が本当に嬉しいです・・・」とその言葉が嬉しくて私は涙がこぼれました。

帰り際に、私の車に積んであったネコ用の缶詰とネコを暖める毛布を渡し「頑張ってくださいね」と伝えると、彼女は「ハイ」と温かい笑顔を見せて下さいました。

私は、あらためて消防団員として出来る本当の役割とは何か、そして私達だからこそ協力できる事って何だろうと考えました。

そこで私は提案したいのです。『手助け・・・』という役割を。

『消火の・・・手助け』『救助の・・・手助け』『救急の・・・手助け』そしてもうひとつ『心の・・・手助け』を。

これこそが私達、町に密着した消防団員としての大切な役割の原点、そのものではないでしょうか。

11年前の母には何の手助けもしてあげられなかったけれど、今こうして消防団員として頑張っている事で心の手助けをしてあげたい！

この大好きな消防で私が学んだもの。ずっと大事にして行きたい

『もうひとつの手助け！』

---

[▲ このページの上に戻る](#)

## 目次

---

[1 少年少女消防フレンドシップ2003の開催](#)

[2 平成14年度 全国消防団員意見発表会の開催](#)

[3 地方からの便り](#)

[4 あなたも危険物取扱者・消防設備士に](#)

[5 日本防火協会からのお知らせ](#)